

全油販連第71回定時総会

講演会・講話、懇親パーティー開催

令和6年10月23日(水) 15:10~18:30
ロイヤルパークホテル 春海の間・有明の間

全国油脂販売業者連合会は第71回定時総会を開催した。総会では、令和5年度事業報告及び決算報告、令和6年度事業計画案及び予算案が原案のとおり承認され、任期満了に伴う役員改選では、館野洋一郎会長(㈱タテノコーポレーション社長)、宇田川公喜副会長(㈱宇田川商店社長)、島田豪副会長(島商㈱社長・東京油問屋市場理事長)、木村顕治副会長(㈱マルキチ社長・関西油脂連合会会長)が再任、新たに長谷川徹氏(名古屋油糧㈱社長・愛知県油脂卸協同組合理事長)が副会長に選任された。

総会後は講演会を開催。フードコラムニスト 門上武司様が「世界をおいしく、面白く 食べる楽しみ」をテーマに、『おいしい』ということについての話や、食べることは人とのコミュニケーションにとって最大である、など御講演いただいた。

続いて、農林水産省大臣官房・新事業食品産業部食品製造課 野添剛司課長による講話が行われ、「食料・農業・農村基本法の改正と食品産業政策の展開方向」をテーマにお話しいただいた。

その後の懇親パーティーでは、始めに館野会長が、「油脂業界を取り巻く環境は、需要面でも供給面でもこの数年間厳しい状況が続いている。そのような中、門上先生のお話では、特に油脂について力を入れてお話いただき、卸問屋の業界においても、油の価値とは何か、また油を使ってどのような価値が創り出せるかにおいて、非常に示唆に富んだお話が伺えた。また、野添課長の御講話では、25年振りの基本法改正ということで、特に安定供給の面において油脂の役割は大きく、平時の時も有事の時も国民の食生活に不可欠の油脂を供給していく体制をしっかりと作って必要がある、というお話は、私たちにとっても大いに関係があり、しっかりと取り組んでいかなければならないと改めて感じた。これからも日本植物油協会様をはじめとする関係団体の皆様方



門上氏の講演



野添課長の講話

と連携をし、安定供給のやり方、油脂の価値の高め方、油脂の普及について、これまでやってきたことをベースに、もう一度新しい歩みを進めていければと思う」と挨拶した。

続いて野添課長より「国際情勢、気候や為替の問題が折り重なる中で、原材料の調達をはじめ厳しい環境が続いていると認識している。このような大変な状況の中、油の業界の皆さま方が、平時も有事も重要な物資である油の安定供給に御尽力されていることに、心から敬意を表したい。館野会長のリーダーシップのもと、皆さま方がこのような取り組みを今後も継続していただくことを強く期待している」と来賓挨拶をいただいた。

次に日本植物油協会 佐藤達也会長(㈱J-オイルミルズ社長)より「2021年半ばから急騰した大豆や菜種の相場は落ち着きを見せ始めている。一方で、為替や異常気象などこの先も極めて不透明な要因はまだ多々ある。この環境下にあっても、植物油業界は国民生活に欠かせない油を、高い品質を維持しながら安定的に適切な価格で供給するという責務を担っている。それを果たすために、全油販連の会員各社の皆さまと、私ども植物油協会との連携・協力は不可欠であると認識している」と挨拶をいただき乾杯音頭をとっていただいた。



館野会長の挨拶



日油協佐藤会長の挨拶

懇親パーティーの中へは、長谷川新副会長が「全油販連は全国の仲間が一堂に会し、親睦を深めたり意見交換できる非常に貴重な場であると思っている。また、沢山の賛助会員の皆さまと交流できる有意義な場でもある。この貴重な場を副会長として、賛助会員メーカーの皆さまのご支援をいただきながら、会員の皆さまにとってより有意義なものになるよう努力していきたい」と挨拶し、館野会長、宇田川副会長、島田副会長、佐橋前副会長も壇上に上がり油をを行った。油脂製販関係者約80名の参加で盛会となった。



長谷川副会長の中へ挨拶

(写真提供 油脂特報社)